

岐阜市寺町にある瑞龍寺。臨済宗妙心寺派の雲水の修行道場です。本堂の奥には、厳しい座禅修行を行う大徹堂があります。3年前に私は初めて堂内に入りました。そこに敷かれた20帖の縁なし琉球畳。荒々しい天然素材七島蘭の持つ飾らない素朴さが禅堂の厳かな造りと一体化し、殺伐とした空気を感ずります。瑞龍寺の塔頭に鶴樓院があります。整然と敷かれた150帖の畳空間。備後長引表という素材だけが持つ光沢と気品ある黄金色。落ち着きの中に漂う独特な雰囲気

素描

幻の畳

岐阜県畳組合理事長 石河恒夫

は息をのみます。本堂の奥には松尾流12代妙玄斎宗匠お好みの席「白鶴亭」があり、席に敷かれた4帖の畳は約20年前に先代が納入したものです。今春、住職から席の4帖の内1帖の表替えのご依頼があったのですが、配中継ぎ表が使われていた中継ぎ表の予備が当店に保管してあったので、蘭草生産者の廣川宏志氏、織り手の寺岡文子さんに、そして畳を作った当店の先代、今は亡き名工たちの想いが詰まっています。1枚の中継ぎ表を前に、作業中感極まるものがあり、二度とできない貴重な仕事でした。